

2025（令和 7）年 5 月 1 日

東京都千代田区四番町 5 番地 3
科学技術振興機構（JST）
Tel：03-5214-8404（広報課）
URL <https://www.jst.go.jp>

研究成果最適展開支援プログラム（A-STEP）実装支援（返済型） 株式会社エキュメノポリスへの開発支援の決定について

JST（理事長 橋本 和仁）は、研究成果最適展開支援プログラム（A-STEP）実装支援（返済型）の 2024 年度募集において、株式会社エキュメノポリス（本社：東京都新宿区、代表取締役：松山 洋一）に対する開発支援を決定しました（別紙）。

本事業は、大学等の研究成果（技術シーズ）の社会実装を目指すスタートアップ等を対象に、革新的な製品・サービス創出に向けた実用化開発を開発費の貸し付け（無利子）により支援するものです。

株式会社エキュメノポリスは、早稲田大学の研究成果を用いて、会話 AI エージェントを活用した言語教育のデジタルトランスフォーメーション（DX）を推進しています。本事業の支援では、会話 AI エージェントを大規模、高品質、高信頼かつ低コストで開発、運用できるプラットフォームを構築するとともに、日本語の会話に特化した診断評価・学習支援向け会話 AI エージェントアプリケーションを開発します。

なお、本事業では、外部専門家で構成される評価委員会にて、技術シーズの新規性・優位性、イノベーション創出の可能性、研究開発の目標・計画、事業化の可能性、財務状況などの観点から応募相談・選考を行い、開発支援を決定しました（参考）。

<添付資料>

別紙：A-STEP 実装支援（返済型） 開発課題の概要

参考：A-STEP 実装支援（返済型）について

<お問い合わせ先>

科学技術振興機構 スタートアップ・技術移転推進部

〒102-0076 東京都千代田区五番町 7 K's 五番町

下田 修（シモダ オサム）

Tel：03-5214-8995 E-mail：[jitsuyoka\[at\]jst.go.jp](mailto:jitsuyoka[at]jst.go.jp)

<科学を支え、未来へつなぐ>

例えば、世界的な気候変動、エネルギーや資源、感染症や食料の問題。私たちの行く手にはあまたの困難が立ちはだかり、乗り越えるための解が求められています。JST は、これらの困難に「科学技術」で挑みます。新たな価値を生み出すための基礎研究やスタートアップの支援、研究戦略の立案、研究の基盤となる人材の育成や情報の発信、国際卓越研究大学を支援する大学ファンドの運用など。JST は荒波を渡る船の羅針盤となって進むべき道を示し、多角的に科学技術を支えながら、安全で豊かな暮らしを未来へとつなぎます。

JST は、科学技術・イノベーション政策推進の中核的な役割を担う国立研究開発法人です。

A-STEP 実装支援（返済型） 開発課題の概要

1. 開発課題名

診断評価・学習支援向け会話 AI エージェントプラットフォームの開発

2. 技術シーズを創出した大学等の研究者

早稲田大学 グリーン・コンピューティング・システム研究機構 知覚情報システム研究所
主任研究員(研究院 准教授) 松山 洋一

3. 開発実施企業

企業名	株式会社エキュメノポリス
設立月	2022年5月
本社所在地	東京都新宿区
代表取締役	松山 洋一
事業内容	会話 AI エージェントの研究開発および販売

4. 概要

近年、マルチモーダル AI^{注1)}の進展が著しく、音声、テキスト、映像、視線といった複数の情報源を統合し、診断や評価を行う技術が急速に発展している。従来、単一モーダルのデータ（音声のみやテキストのみ）を用いた AI 技術が主流であったが、異なるモーダルを同時に処理できるマルチモーダルモデルが登場したことで、AI による言語理解や対話の精度が飛躍的に向上している。

教育分野においても、マルチモーダル AI の導入が進んでおり、英語スピーキング試験や面接評価において、音声、表情、ジェスチャーを含む包括的な点数化が試みられている。しかし、現行の技術は依然として単一モーダルに依存する部分が多く、発話内容の正確性や流暢性などを評価するテストは存在するものの、相互作用の質（やりとりの力）までは測定できていない。

株式会社エキュメノポリス（以下、EQU 社）の会話 AI エージェント^{注2)}技術は、AI エージェントとの会話を通じてユーザーの潜在能力や潜在ニーズを自然に引き出す対話戦略を有し、会話により得られたマルチモーダルなデータを統合的に解析することで、より精緻な会話能力の診断を可能としており、単なる発話の正確性だけではなく、会話における「やりとりの力」を測定することができる。また、診断結果に基づいて、個人ごとに最適化された対話シナリオやカリキュラムを生成し、効果的な学習を提供できる。

EQU 社は現在、英会話能力の診断・自己学習アプリケーション「LANGX Speaking（ラングエックス・スピーキング）」を提供している。今後、同社は対話型診断・学習支援技術を基盤として、英会話以外の言語教育や対人スキルの評価、カウンセリングや会話を通じた高度な診断など多様な分野で会話 AI エージェントの活用を目指している。

EQU 社は本事業の支援により、会話 AI エージェントを大規模、高品質、高信頼かつ低コストで開発、運用可能なプラットフォーム「EQU AI Platform」を構築する。このプラットフォームを用いて、AI エージェントとの会話を通じた能力診断とトレーニングを高度化するアプリケーションの開発を行うユーザーを支援し、多様なニーズにあった会話

AI エージェントアプリケーションをエンドユーザーへ提供可能とする。これにより、英会話にとどまらない言語教育のDXを推進するとともに、実社会で求められるコミュニケーション能力の向上へ貢献する。



図1 LANGXにおける会話AIエージェント



図2 LANGX サービスイメージ

<用語解説>

注1) マルチモーダルAI

2つ以上の種別（モダリティ）の情報を統合的に処理する人工知能（AI）の総称。

注2) AI エージェント

設定に従ってユーザーに代わり高度なタスクを実行する人工知能（AI）を活用したプログラムの総称。単純な応答システム（例：チャットボット）を超えて、複雑な判断や対話戦略の設計を可能とする。

A-STEP 実装支援（返済型）について

1. 本事業の目的

A-STEP 実装支援（返済型）は、スタートアップ等の開発支援を行う事業です。大学等の研究成果（技術シーズ）の社会実装を目指すスタートアップ等を対象に、革新的な製品・サービス創出に向けた実用化開発における開発費を貸し付けにより支援するものです。



図 A-STEP 実装支援（返済型）のスキーム

2. 対象企業

スタートアップ等

3. 支援規模

開発期間：最長3年間

開発費：上限5億円（総額）

4. 返済条件

事後評価の結果によって返済条件が異なります。

詳細は「7. 公募要領などの本事業の詳細」からウェブページをご覧ください。

5. 担保または保証

開発費総額の10パーセント相当分を開発開始時に一括設定します。

6. 募集・選考について

例年、募集は4月1日から翌年3月31日まで年度単位で行い、通年で随時応募相談・選考および採択を実施します。

7. 公募要領などの本事業の詳細

URL：<https://www.jst.go.jp/a-step/koubo/hensai.html>

8. 評価者一覧

氏名	役職	所属機関・部署・役職
國尾 武光	委員長	双葉電子工業株式会社 社外取締役
加藤 政一	委員	東京電機大学 工学部 教授
北見 紀男		株式会社経営戦略研究所 参与
小浦 節子		千葉工業大学 工学部 非常勤教員（元 教授）
佐々木 高義		物質・材料研究機構 理事長特別参与・フェロー
堂免 恵		株式会社湧志創造 代表取締役
古谷 真優美		元 京都大学 学術研究展開センター リサーチアドミニストレーター（上席）
堀 修		株式会社東芝 研究開発センター 首席参与
森原 淳		東京科学大学 総合研究院 特任教授 カンケンテクノ株式会社 CTO
山田 真治		株式会社日立製作所 研究開発グループ シニアチーフエキスパート

（敬称略、委員は五十音順）

（2025年3月時点）